

令和４年 東北管内におけるガス事故について

(１) ガス事故詳報対象事故について

① 管内におけるガス事故の発生件数について

令和４年に発生した東北管内におけるガス関係報告規則第４条第１項に該当する詳報対象事故（以下「ガス事故」という。）の発生件数及び被災者数は表１、表２のとおり。

表１ 管内のガス事故発生件数 [単位：件]

		H23	H24	H25	H26	H27	H28
東北管内	一般ガス事業	11	12	6	10	8	6
	導 管 事 業	0	0	0	0	0	0
	簡易ガス事業	2	3	1	6	2	3
	小 計	13	15	7	16	10	9
全 国		467	471	767	674	532	468

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4
東北管内	ガス小売事業	1	3	1	3	4	1
	一般ガス導管事業	4	4	6	6	2	1
	特定ガス導管事業	0	1	0	0	0	0
	ガス製造事業	0	0	0	0	1	1
	小 計	5	8	7	9	7	3
全 国		406	403	441	339	367	405

注１：H23年の事故件数には、東日本大震災による製造支障事故や広範囲の導管損傷による供給支障事故の件数は含んでいない。

注２：H25年の全国の件数は、FF式レンジフード型給湯器のケーシング変形による事故件数の大幅な増加（前年比289件増）が要因であるが、当該機器メーカー等が積極的に点検、部品交換を実施している過程で多く発見されたものである。

注３：H29年４月改正ガス事業法の施行により、ガス事業類型が変更となっている。

表2 管内のガス事故による被災者数

[単位：人]

		H23	H24	H25	H26	H27	H28
死亡者数	一般	2	0	0	0	0	0
	簡易	0	0	0	0	0	0
	小計	2	0	0	0	0	0
負傷者数	一般	14	3	3	3	3	0
	簡易	2	0	0	1	0	1
	小計	16	3	3	4	3	1
全 国	死亡	3	0	1	1	2	0
	負傷	78	54	39	51	44	26

		H29	H30	H31 (R1)	R2	R3	R4
死亡者数	ガス小売事業	0	0	0	0	0	0
	一般ガス導管事業	0	0	0	0	0	0
	特定ガス導管事業	0	0	0	0	0	0
	ガス製造事業	0	0	0	0	0	0
	小計	0	0	0	0	0	0
負傷者数	ガス小売事業	0	0	0	0	1	0
	一般ガス導管事業	1	0	1	0	1	0
	特定ガス導管事業	0	0	0	0	0	0
	ガス製造事業	0	0	0	0	0	0
	小計	1	0	1	0	2	0
全 国	死亡者数	0	0	2	1	0	2
	負傷者数	28	54	39	30	25	29

注1：負傷者数にはCO中毒を含む。

注2：H29年4月改正ガス事業法の施行により、ガス事業類型が変更となっている。

② 管内におけるガス事故概要について

令和4年に東北管内で発生したガス事故を段階別にみると、製造段階で1件、供給段階で1件、消費段階で1件となっている。

東北管内のガス事故概要は表3のとおり。

表3 東北管内のガス事故概要（令和4年1月～12月）

月日	県名	区分	段階	現象	事故の概要
① 1月8日	山形	ガス 導管 事業	供給	漏えい・ 爆発	隣りの敷地で解体工事中に灯外内管を重機で引っ掛け、以前使用していた共同内管が事故宅敷地内で損傷し、ガスが漏えいした。漏えいしたガスは、下水管付近を通じて同宅建物に入り込み、ガスコンロの着火により、シンク下収納ボックス内で爆発し、内壁などを破損したものの。 原因は、不使用内管に関する埋設表示が不十分であったこと及び事前に協議がなされなかったことによるもの。
② 3月16日	福島	ガス 製造 事業	製造	製造支障	地震（震度6弱）が発生し、導管送ガスおよび発電向け送ガスが緊急停止した。商用電源が停電したため、非常用発電機が自動起動し、保安電力が確保された。（導管送ガスについては、バックアップ供給により導管ガス需要家への影響なし。）津波注意報が解除されたのち、翌日から現場確認を開始し、特別高圧変圧器の異常表示、気化器にLNGを送出するポンプと配管との間に傾斜がつくなど、基礎間の不等沈下等が確認された。応急措置等を行い、各設備の健全性を確認したのち、3月17日に商用電源に切替えを行い、導管向け送ガスを開始。3月19日に発電向け送ガスを再開した。（製造支障時間：18時間23分）
③ 5月26日	岩手	ガス 小売 事業	消費	漏えい・ 引火	消防署から事業者へ連絡があり、コンロ付近が焼損した模様とのことで現場確認を要請された。処理担当者が現場に着き確認したところ、住人がコンロ使用中に、機器前より火が出たが、点火（消火）ボタンは熱で変形して操作できず、水をかけて消火し、消防へ通報したことがわかった。 原因は、コンロの経年劣化（製造後30年）により、電磁弁付近から漏えいしたガスに使用中のコンロの火が引火したものと推定される。